

長谷川 哲子（関西学院大学経済学部）

関学日本語教育研究会は、2007年に本学言語コミュニケーション文化研究科に日本語教育学プログラムが新設されたことを機に、于康教授（現国際学部教授。当時は経済学部教授）の呼びかけにより、発足した研究会であり、2014年7月に第14回を開催している。本研究会は、本学の日本語教育および日本語教育研究に携わる全ての教員、大学院生にひらかれた研究会である。例年、年2回の開催とし、2014年度の開催は、2014年7月、2015年3月（予定）である。

第14回研究会（2014年7月開催）では、本学総合政策学部の牲川波都季准教授より「異質性受容を可能にする方略・思想・環境－秋田県仙北市のグリーン・ツーリズム事例より－」とのタイトルで研究報告があった。続いて、本学日本語教育センターの内藤真理子日本語常勤講師より「学部一回生を対象としたアカデミック・ライティングの指導」と題した研究報告があった。内藤日本語常勤講師の発表要旨については、本号の「関学日本語教育研究会報告」を参照されたい。

2014年3月開催の第13回研究会では、本研究会初の取り組みとして、学内の日本語科目担当教員による実践報告会を開催した。本学の留学生数は漸増しており、日本語科目担当の教員数も増加している。そのため、教員間における情報共有および情報交換の場として、各自の授業実践活動を中心に報告を行った。本号には各発表者による発表要旨を掲載しているので、合わせてご覧願いたい。

本学は、今年度に「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択され、今後は留学生の受入体制をよりいっそう充実していくことが求められている。それに伴い、関西学院大学における日本語教育の充実、および日本語教育やその研究に携わる人材の育成にも資するような場の提供をめざしていきたい。